

古城小だより

旭市立古城小学校
令和元年6月20日
NO. 6



豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子の育成



紫陽花が色鮮やかに咲き誇っています。校庭では、「ネジバナ」という山野草があちらこちらに可愛い花をつけています。

運動会という一大行事を成功させ、児童は、一回りたくましくなったように感じます。そして、「次は勉強だ。」と新たな目標に向かって頑張る姿が見られます。今日も子ども達の元気な声が響いています。

今年になって、登校班での集団登校がしっかりとできるようになりました。1年生から6年生まで、体の大きさも歩くスピードも違いますが、高学年が時折後ろを気にしながら、1列で歩いて登校する姿が見られます。まず、高学年が大きな声であいさつします。それに負けないように小さな子達も元気にあいさつをします。こんな様子を見るたびに、古城小の素晴らしさを再認識します。



「古城っ子は、よくあそべ」の約束がここでも効果を上げていることを嬉しく思います。



文化芸術による子供育成総合事業

4年生も大活躍 劇公演「だいだいの空」



6月7日(金)劇団「トム・プロジェクト」俳優・スタッフ合わせて20名が来校、古城小の体育館が演劇の舞台へと変わりました。この事業は「文化芸術による子供育成総合事業」に応募し、開催したものです。

劇「だいだいの空」は戦争により家族を失い独りぼっちになった老人と友達と上手くかかわれない現代っ子が、現代と戦後をタイムスリップし、自然の大切さに気付くことや何かをなし遂げるためには「勇気」が必要であることなど、たくさんのお話を学ぶ内容でした。子ども達の心に響いたことと思います。そして、何よりも素晴らしかったことは、4年生が出演者となり、歌ったり演じたりしたこと。のびのびと、堂々と演技する4年生。4年生の新たな一面を見ることができました。また、6年生 蓮見琴音さんの児童代表お礼の言葉も素晴らしかったです。

6年生 鏑木俊一先生による 歴史特別授業

6月11日、6年生は地元古城を理解する歴史特別授業を行いました。校歌に謳われる「城址を照らし」の城とは「鏑木城」のことであり、この城があったから「古城小」という校名になったこと、前方後円墳のこと、古城の偉人など、多くのことを学びました。鏑木先生のお話を聞き、自分の生活と歴史がつながっていることや教科書の歴史だけでなく、地元の歴史を感じることができた授業でした。古城小学校では、「ふるさと教育」を大切にしています。古城地区を学び、古城地区を理解し、古城地区(ふるさと)を愛せる児童になって欲しいと強く願っています。



ご存じですか? 古城の偉人「金杉 英五郎」 耳鼻咽喉科の第一人者

金杉英五郎は、日本の耳鼻咽喉科の先駆者であり、第一人者でもあった。その業績は単に医学界にとどまらず、政治の世界にも進出して国会議員となり、社会的にも貢献した。

東京医科大学別科(東京大学の前身)卒業後、明治21年ドイツに留学、ベルリン大学等で学び、その後、東京病院で専門治療を始めるとともに、耳鼻咽喉科の講義を始めた。(日本初)明治26年東京耳鼻咽喉科委員を設立。この学校が大学に昇格し、東京慈恵会医科大学となり、初代学長となる。大正6年衆議院議員となり、日本の医療発展のために努力し、北里柴三郎らとともに、医師出身の政治家として高い評価を受けた。<平成29年7月 発行 あさひ 輝いた人々より一部抜粋>

3年4年 社会科見学「第一給食センター」「笹川浄水場」

6月17日、3・4年生は旭市研修バスを利用して、社会科見学に出発しました。今年は、3・4年生と一緒に「第一給食センター」を訪問し、給食ができるまでを学ぶことができました。私たちに美味しい給食を提供してくれる給食センターの仕事を見聞きし、おいしくて、安全な給食を提供するために、そこで働く人の努力や苦勞を感じ取ることができました。食育としての素晴らしい学びにもつながりました。

4年生5名が参加 「旭市市民スポーツのつどい」

6月9日には、旭市市民スポーツのつどいが開かれ、4年生女子5名で結成した「古城ジュニア」チームがミニバレーボールの部に出場しました。バレーボールが大好きな5人組は、予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントへ進出するも、惜しくも4位の成績でした。何事にもチャレンジすること、学校から飛び出してやってみること、そこに大きな意味があります。きっと、「次こそは!」と新たな目標をもって次回に臨んでくれることと思います。

「頑張れ 古城っ子!!」

